



みやぎ防災ジュニアリーダー養成研修会 ～将来の地域防災の担い手となる人材を育成～

12月14日、15日に県内2会場において、東北大学災害科学国際研究所との共催による「みやぎ防災ジュニアリーダー養成研修会」を開催しました。

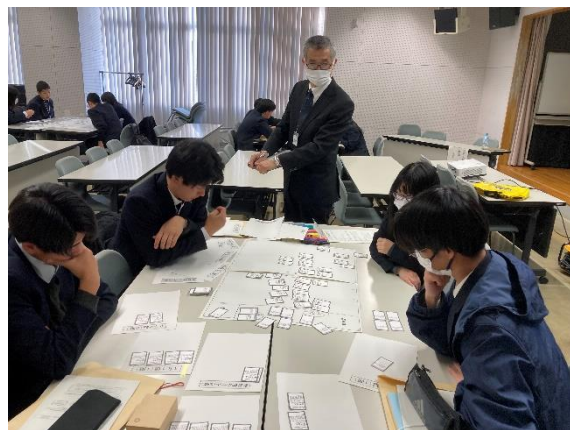
今年度は、県内の県立高校32校を対象としており、110名の生徒が参加しました。

午前中の講義では、講師の先生の話に真剣に耳を傾け、メモを取りながら聴いている生徒が多く、意欲的な姿が見られました。

午後は、研修会の運営協力校でもある気仙沼向洋高等学校語り部クラブの東日本大震災の伝承活動紹介、多賀城高等学校災害科学科による自然災害を科学的な視点で捉える活動等の紹介が行われました。

演習の避難所運営ゲーム（HUG）では、初めて会ったとは思えないほど、チームワークがよく、意見を交わしながら取り組んでいました。高校生のコミュニケーション力の高さに驚きました。相手との意思疎通を図る力は、災害時に様々な判断が求められたときに役立つものであり、とても頼もしく感じました。

みやぎ防災ジュニアリーダーに認定された高校生は、宮城県防災指導員としても認定され、今後、学校や地域での防災活動をリードする存在です。みなさんの活躍に期待しています！



【防災ジュニアリーダー養成研修会参加者の感想（一部抜粋）】



人と人とのつながりを大切に生きていきたいと強く思いました。日本に生きていく上で災害とはどうしても向き合わなければいけない、その中でどう防災、減災に向けて対策していくか、学校や家で今一度話し合いたいと思いました。

自分事として考えることの大切さや平塚先生自身が経験したことを今後の伝承活動に活かしていき、東日本大震災を絶対に風化させないようにしようという気持ちがより一層高まりました。

次々人が入ってきてゲームだから入れ替えができたけど実際には出来ないことが多いので運営に携わっていた人たちのその場での判断がすごいんだなと思い、避難所に行った時は設営などできることを手伝おうと思いました。

防災とは、未来の命を守ること、未来をつくることだと学びました。そして災害は他人事ではなく自分事として考えるべきだと学びました。

地震の仕組みや津波の高さの定義などデータに関することをいくつか学べてとても良かったです。データや計算方法を学んでそれを課題研究に生かせるらしいなと思いました。

今まで何となくしか把握していなかった災害についての知識を、確実なものにすることができた。特に地震対策について、とりあえず家具を固定していればいだろうという程度だった防災意識を改めることができた。

HUGは、疲労が蓄積されるゲームで本番なら底しれぬ疲労がくると確信しました。運営する人々は忍耐力も凄く、自分達には分からないほどの苦勞をされていると感じたので、ボランティアは大切だと感じました。

不審者対応の再確認を！

12月に入り、SNSによる動画拡散や刃物による死傷事件など、県内外で児童生徒が標的とされる事件等が続けて発生しているため、下記を参考に改めて防犯に関わる方策について確認をお願いします。

- 登下校時の緊急の避難場所となる「子供110番の家」等の役割や場所について、事前に周知する。
- 登下校時等の緊急事態発生の具体的な対処法（防犯ブザーの活用、大声を出す、逃げる等）について指導する。
- 不審者情報が入った場合は、早急に関係者間で共有するとともに、保護者や児童生徒等に対しても情報を周知する。
- 防犯上の緊急事態が発生した場合の登下校の対応について、危機管理体制（保護者、見守りボランティア等への協力依頼）を整えておく。
- スクールバス利用時も家からバス停までの区間（一人になる場面）の安全についても確認する。

安全に冬休みを過ごせるようお声がけください！

